

テーマ「NPO法人化とこれからく住みやすい広島のまちづくりを目指して」

とき／平成16年(2004年)2月10日(月) ところ／まちづくり市民交流プラザ2階フリースペース
コーディネーター／NPO法人ひろしまNPOセンター(平成11年10月22日認証)常務理事 事務局長 中村隆行さん
ゲスト／NPO法人きつかけづくりの会(平成11年4月1日認証)理事長 奥田信春さん
NPO法人ひろしま点灯虫の会(平成13年7月18日認証)事務局長 鈴木俊哉さん
NPO法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション(平成15年10月22日認証)理事長 上野和子さん
NPO法人多文化共生センター(平成12年7月13日内閣府認証)理事・ひろしま代表 田中泉さん

平成10年(1998年)12月1日にNPO法が施行されて、昨年の12月で5周年。昨年12月末で、広島県のNPO法人(特定非営利活動法人)の認証数は235(内閣府認証17法人含む)、そのうち広島市に事務所を置く法人の認証数は131(同9法人含む)となりました。NPO法人の活動分野は、あらゆる分野へと広がり、団体数も年々増えています。それに伴い、NPO法人への社会的な期待もますます高まりつつあります。

あらゆる分野で活動中のNPO法人

まず、それぞれの団体の目的と、その実現に向けてどのような活動を展開されているのか、お話しください。県認証第1号のきつかけづくりの会からお願います。

奥田 私たちの活動は、すべての人が住みやすく生きやすい広島を目指すこと。現在は、高齢者、障害者のことを考えたユニバーサルデザインの提案や車いすの体験ユニットの制作、普及活動なども行っています。年を重ねるごとに、段階的にいろいろな展開ができるようになりました。

参加者は延べ3万人以上になりました。戦争に対する平和だけではなく、家族みんな仲良く暮らしたいとか、あらゆる面での平和を発信していきたいと思っています。

NPO法人化 広がる可能性

法人化に踏み切られた理由を教えてください。

奥田 法人化する1年前から活動を始めていたのですが、当然活動費が必要です。そこで、何か収益を出して福祉活動をしたいと考えていました。しかし取引上はやはり、株式会社か何かの形をとらなければなりません。そんな時偶然、新聞の片隅にNPOの説明を見つけたんです。NPO法人となつて変わったのは、周囲の見方でしょうか。以前は、福祉を利用して商売しているんじゃないか、なんて言われました。

上野 私たちは、NPO法人「子ども劇場広島県センター」の中にあつたのですが、昨年10月にNPO法人として独立しました。これまで、企業などに支援のお願いに出向いた際、チャイルドラインを支援するのだから領収書に「チャイルドライン」を入れてほしいとの要望が多く、悩みました。それから議論を重ねてやっと、認証取得しました。この度、事務所の引越しをするこゝなつたのですが、そのオーナーに「任意団体であれば、どんなに社会性のある活動でも貸しにくかった」と言われ、NPO法人になつたお陰だと実感しているところですよ。

田中 結局は信用ということだと思います。うちは資金を得るために、外国の童謡を集めたCDや発行書籍などの販売もしています。すすめる時、NPO法人だと安心して聞いてくれるなどの利点もあります。

上野 私たちは、子どもの社会参画というミッションを掲げて、子どもの声を電話で受け止め心の居場所をつくろうと、月・金・土の週3日、「チャイルドライン」を開設しています。知らない人たちが話を聞いてくれるという安心感からか、今では、月に子どもたちから200本近く電話を受けています。ただ現在の電話回線数や日数受け手ボランティアの人数などの状況では、すべての子どもたちの声を受け止めることができていません。

田中 発展途上国を支援するNGO、NPOは多いですが、私どもは広島に住んでいる外国人、特に日本語がうまく話せない労働者の方たちを支援しようというグループです。お話を電話や相談会で聞いています。観光客など短期滞在者を除いた、在広外国人の数は2万人にのぼりますが、行政だけではフォローできない部分のケアをと考えて活動しています。

鈴木 私たちの会は、8月6日に広島市の街にキャンドルをともし、「ピースキャンドル」の取り組みを行っています。以前は、8・6の夜の平和公園はライトアップもなく、真暗でした。周囲の仲間とこれを何とかしようとして平成9年(1997年)に始めたのですが、今では

鈴木 法人化した理由は3つありました。一つは、法人化することで事業の継続性を強固なものにしたかったこと。二つ目は、任意団体の場合お金の出入りを代表者個人の収入・支出とみなされ、課税問題が出てきたこと。三つ目は、見積もりや契約書などの文書をやりとりする時、先方から法人格のある領収書を要求されることが多かったことです。実際に法人化したことにより、責任を持つて事業を継続できるようになったことは、非常に良かったなと思います。ただ、事業計画や減免措置の申請手続きなどがもつと簡便になれば、というのが本音かな。

求められるのは責任ある行動

法人化してデメリットや課題などもあつたと思います。これから法人化を目指す方たちに、アドバイスをお願いします。

奥田 活動をする中で一番大切なのは、事業の趣旨と内容です。ある程度明快な計画書を作らないと、理想だけでは活動できません。ちゃんとした計画書があれば、NPO法人ということで話を聞いてもらえるし、趣旨・目的がその相手に合えば、事業実現の可能性が広がります。

上野 自分たちが何をしたいか、何をしているのかを明確に、オープンにすることが、NPOには、一番大切なことだと思います。それがはっきりしていれば、市民の



「移動式車いす模擬体験ユニット」を使つての実体験

奥田 信春さん
きつかけづくりの会 理事長



子どもたちから相談の電話を取るボランティアスタッフ



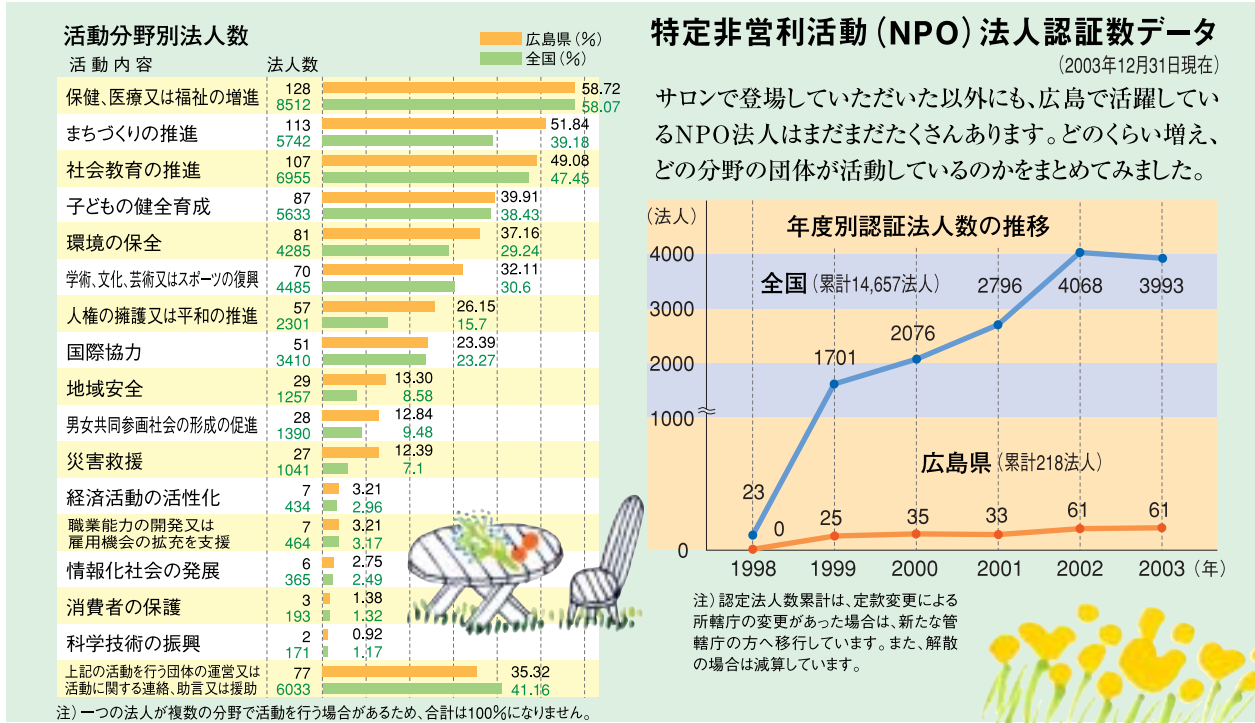
上野 和子さん
ひろしまチャイルドライン子どもステーション 理事長



多文化カフェの風景
(ペルー文化の紹介)

田中 泉さん
多文化共生センター 理事・ひろしま代表





鈴木 俊哉さん
ひろしま点灯虫の会 事務局長

8・6のピースキャンドルの様子



理解も得やすいと確信しています。市民活動に参加するということは、本当に意義深いと思います。ぜひあらゆる立場の人がさまざまな形でNPO活動に携わり、広島を支えていただければと思います。

田中 先ほど信用を得るのがメリットだと話しましたが、その反面、信用には責任が伴います。これは支援者への情報公開や寄付をいただいた方への報告が必要ということ。実際、会計処理は予算規模も大きくなると専門的な知識が必要になってきます。これがきつちりできないと、NPOとしては継続できないでしょう。

鈴木 NPO法人は、社会的に必要性があるから活動しているのです。ですから、それぞれの事業を継続していけるということが、NPOの一番のメリットだと思います。その中で、一番肝心なのは活動や収支を体力に合わせて拡大すること。責任はもちろん発生しますが、事業目的を達成するための責任ですから、それを負担と思うか、それでもやらなきゃいけないと考えるか、ということがポイントですね。

アイデアあれこれ これからのNPO法人

では、広島のNPOがさらに活発に活動しているには？

鈴木 活動が活発なNPO同士を組み合わせるマッチング機能があれば、さらに素晴らしいことができるのではないかと感じます。ほかの団体の方とお話する場もなかなかないですし。それと、補助金や助成金などは前渡しではないので、つなぎの資金が必要です。行政が主体で補助金を出す場合には、できれば

事業の規模に合わせて、前渡しである程度いただけるような仕組みを作ってもらいたいですね。

上野 助成金を頂くのは結局その事業だけですが、日常の維持費の確保が大変です。そのあたりを公的に考慮してもらえれば、助かります。少しでも事業を継続する意義を認めて、支援していただきたいというも思っています。

奥田 事務所の経費も問題です。

鈴木 NPOにある期間貸してくれる場所があれば、諸経費がずいぶん楽になるんじゃないでしょうか。

上野 他県では、廃校を提供しているところも多いようです。広島でもNPOプラザといった場所が欲しいですね。

奥田 例えば、ずっと貸し続けるのではなくて、NPO法人ができて3年間、5年間、力がつくまで貸すといった形でも、NPOがもっと活性化すると思います。

中村 この点ではNPOが一致団結して「大プロジェクト」にしてみたいですね。



コーディネーター 中村 隆行さん
ひろしまNPOセンター 常務理事 事務局長



広島市のさまざまな支援制度

広島市では、ボランティアやNPOなどの市民活動を支援するための制度が次々に生まれています。そのひとつが今年4月からスタートする「広島市市民活動保険制度」。

また、今年度中には、「NPO活動支援融資制度(仮称)」ができる予定です。これらの制度を利用した市民活動の活性化が期待されます。

4月スタート！

広島市市民活動保険制度

この制度は、市民の皆さんが安心して地域社会づくりのための市民活動(ボランティア活動など)に参加できるよう、市が保険料を負担し、活動を行う市民の皆さんが対象となる仕組みです。

1 対象者

広島市民もしくは市民活動の本拠地が広島市内にある人で、市民活動を行う人(事前の登録は不要です)

2 対象活動

報酬(実費弁償程度を除く)を伴わない、継続的・計画的な公益性のある活動

●活動例

- ・地域清掃や防犯パトロールなどのコミュニティ活動
- ・地域での子育て支援などの社会福祉活動
- ・被爆体験の継承活動などの平和推進活動
- ・通訳ボランティアなど国際交流・協力活動
- ・その他防災・環境保全・市民活動支援などの活動

①賠償責任

3 内容

活動者の過失により、被害者の生命・身体・財物に損害を与え、法律上の賠償責任を負った場合

●損害賠償事故にかかる限度額

対人Ⅱ1億円／人

2億円／事故

対物Ⅱ1億円／事故

保管物Ⅲ300万円／事故

②傷害

急激かつ偶然な外来の事故で活動者が死亡、または負傷した場合

●傷害事故にかかる支払額

死亡Ⅱ700万円

後遺障害Ⅱ21700万円

入院Ⅲ3,000円／日

(180日以内)

通院Ⅱ2,000円／日

(180日以内で90日限度)

4 実施期間

平成16年(2004年)4月1日午後4時から1年間

5 事故発生時の手続き

事故発生後、速やかに最寄りの区役所区政振興課もしくは市役所市民活動推進課に、電話で事故内容をご連絡ください。

以後、所定の事故報告書等の提出を行っていただき、内容審査後、支払いを行います

(※結果として制度が適用され

ない場合もあります)

6 問い合わせ先

市役所市民活動推進課

☎504・21113

☎504・20066

そのほかの支援

NPOへの共同事務所の提供など

活動の拠点となる場所を探しているNPOを支援するため、職会館(中区八丁堀の二部を事務所提供したり、専門アドバイザーの派遣などを行っています

問い合わせ先

市役所市民活動推進課

☎504・21113

☎504・20066

まちづくり

アドバイザーの派遣

継続的にまちづくりに関する勉強会や活動を行うおとして市民グループなどを支援するため、「まちづくりアドバイザーの派遣」を行っています

問い合わせ先

市役所都市政策部まちづくり担当

☎504・2676

☎504・2309





時にはマイクで歌をつけることも。
手拍子も飛び交います(2月春香園にて)



津軽三味線の演奏・指導
しもはら ひでじろう
下原秀次郎さん



温かく迎えてくれた
和光園での演奏

Information
●今回「達人図鑑」でご紹介している方々は、「ボランティア人材バンク」に登録されています。
●ボランティア人材バンクは、「仕事や学習、趣味などで得たノウハウを生かして、ボランティアで依頼団体に助言や指導、さらには技の披露などを行う人」を登録しているリストです。
紹介申込・登録申込などのお問い合わせは…
まちづくり市民交流プラザ
TEL 082-545-3911 FAX 082-545-3838

最初のころはハブニング
などもありましたが、今ではすっかり興味が……

若いころの趣味を生かした音楽
三味線のボランティアを始めて10年という、下原秀次郎さん。現在、月2回程度、特別養護老人ホームを中心に、各地へ赴いています。何かボランティアをしたいと考えていた下原さんが津軽三味線を選んだのは、「若いころバンドをやっていた、時期プロで演奏していた」というように音楽の技術に自信があったのと、初心者にも入りやすい三味線の手軽さに魅せられたから。なんと下原さんは三味線

に触ってから3年で、人前で演奏するようになりました。もちろん、竹山流、小山流、藤本流などを勉強してのことです。
聞き手に合わせた演奏を
最初は、広島市内や近郊の特別養護老人ホームに、「三味線の演奏をさせてもらえませんか」と自ら足を運んでお願いして回り、ボランティアが始まったそうです。ひと月に10カ所も回っていたこともあり、2月は、蓬萊園(東

区山根町)と春香園(豊田郡安浦町)の二カ所を訪れています。
「ほかの三味線奏者の方もいらっしやいますが、下原さんは特に音に迫力があって好評なんです。ここは耳が遠い方もいらっしやいますので」と、春香園園長の小川かとりさん。下原さんは最初、実際に聞いてもらえるのかどうか不安だったそうですが、「曲が終わると拍手をしてくれたり、涙を流される方もいて……」と、感動をもらってばかりです。
**向上心と独創性は
尽きることなし**
「自分が喜ぶだけじゃあだめ。自分も楽しい、お客さんも楽しいがモットー」と下原さん。音楽は、聞き手がいないと成り立たないもの。下原さんは、聞いていただける方に感謝しながら、もっぱらその場の雰囲気に合わせて演奏します。このアドリブがあつてこそ、60分という長い独演会もこなせるのだそうです。ほかに、テレビなどを見て

「これはいいな」と思ったリズムはすぐさま取り入れるなど、下原さんの向上心は尽きません。
ソロ演奏が多いそうですが、時折、プロの打楽器奏者とのジョイントもあります。活動日は土・日・祝、数人でも大人数の前でも演奏します。現在は少し控えめな活動にしているそうですが、「演奏の依頼はいつでも受けます」と、やる気満々の下原さんです。



聞き手がいて初めて発揮できる



上野さんは、コンサート後の対話を大切にしています

奏でる人と聴く人が一つになれる音楽を

バイオリニストへの道
現在、広島交響楽団でコンサートマスターを務める上野眞樹さんがバイオリンに触れたのは、4歳のころ。音楽家になつてほしいという母親の願いでなんとなく続いていたレッスンでしたが、中学校の時出会った鈴木共子先生の熱意に押され、本格的にバイオリニストの道に進むことを決意します。大学に

在学中もプロとして音楽活動をしてきた上野さんですが、日本のクラシックコンサートではステージと聴衆との交流が難しく、何のために音楽をしているのか次第に悩むようになります。そんな中、海外で音楽活動をしてみたいと考えるようになり、昭和51年(1976年)、大学を卒業と同時にドイツに渡ります。



バイオリン演奏のレクチャーコンサート
まさき
上野 眞樹さん



上野さんの活動に共感した知人・長井秀男さんの招待で実現した中国・天津の日本人学校でのコンサート(今年1月29日〜2月3日)

**居心地いい
音楽を日本へ**
ドイツのクラシック音楽は、ホームパーティーなどアットホームな雰囲気の中で奏でられることが多く、人々の生活に溶け込んだ身近なものでした。理想の音楽活動を見つけた上野さんは、やがて音楽家も社会活動をしなくてはいけないと考えるようになり、平成14年(2002年)4月に帰国。広島を中心に、福祉施設や小学校などで小規模なクラシックコンサートを開き始め、音楽を通じた交流を大切にしながら活動を展開していきます。

上野さんを待っていたのは、戦争や紛争に巻き込まれて片足を失ったり、顔を負傷してよだれが止まらなかつたりする、世界中から集まつた子どもたちでした。その場でバイオリンを奏でた上野さんに、楽器を初めて見た子どもたちから「自分も弾いてみたい」とリクエストがありました。これまで自分の大切な楽器をほかの人に渡すことのなかった上野さんですが、子どもたちの輝く目に魅せられてバイオリンを手渡しました。大事そうに弦を奏でる子どもたち……その時の笑顔が印象に残った上野さんはその後、バイオリンに興味を持った子どもたちに出会うと、実際に手にとつて奏でてもらうようになったそうです。

広島から平和と音楽の輪を
上野さんは今後、若い音楽家たちが活躍できる場「Peace・アンサンブル(合奏団)ひろしま」をつくり、楽しくかつ質の良いクラシック音楽を広めたいと考えています。音楽を通じて広島から平和の輪が広がっていく……上野さんの活動は少しずつ実を結んでいます。



広島のクラシック喫茶の草分け・音楽茶房「ムシカ」での
イラン地震被災者救援チャリティコンサート(今年1月24日)

えいち
「H」……それは“英知”すぐれた知恵であり、“叡智”深遠な道理をさとる優れた才知でもある。生涯学習のある暮らし、そんな広島の“H(えいち)”をお届けするコーナー。

エイチ・キャンパス

H Campus



無線ヘッドホンで快適視聴

あなたも学習ボランティア

生涯学習は、学習者が主役です。プラザの受信コーナーは騒音で音声聞き難いという意見があり、無線を使ったヘッドホンで聞くシステムが導入されました。あなたの学習経験もきっと、ほかの人の役に立つはず。エル・ネットでの学習を体験して、あなたの活用方法や感じたこと、要望などを教えてください。ボランティアスタッフも随時募集中です。



まちづくり市民交流プラザではすでに100以上の講義がDVD化され、館内貸し出しを実施しています。県立生涯学習センターでは送料自己負担で、個人や学習団体・グループへのビデオ貸し出しを始めました。また、東広島市中央図書館にも常設モニターが設置されています。そのほか、受信設備のある施設などのお問い合わせは……

広島市まちづくり市民交流プラザ
〒730-0036 広島市中区袋町6-36
TEL 082-545-3911 FAX 082-545-3838
パレットひろしま 広島県立生涯学習センター
〒732-0052 広島市東区光町2-1-14
TEL 082-262-9129 FAX 082-262-2415

平成16年度・生涯学習のススメ

月	インテシブ英語	シティカレッジ	大学フェア	エルネット	大学公開講座
4			全国の大学公開講座をプラザ1フロアのテレビで放送！平日午前10時～正午、土曜午後1時～5時		市立大学国際・情報・芸術学部、平和研究所との連携や各大学独自の公開講座の誘致により、大学講座、研究発表、芸術展示を随時開催します
5	募 1 集 期	募 集 期		前年度人気番組リクエスト放送 (約100番組予定)	
6		前期6講座			
7	1期パソコン学習		社会人のための大学活用フェア		
8			今年もやります！社会人入学科、目等履修などに役立つ情報展示や相談ブースが勢ぞろいします		
9	募 2 集 期	募 集 期		今年度新規に収録する最新講座放送 (約100番組予定)	
10		後期5講座			
11	2期パソコン学習	3期募集			
12			平成16年度は11講座を前期・後期で開催。音楽、経営学、建築学、感性工学、環境、英語、アメリカ文学、心理学、植物学、経済学などを計画		
1					
2					
3	3期パソコン学習				

インテシブ英語学習プログラム

市立大学国際学部の青木信之教授をはじめとする英語教育スタッフが生み出した、パソコンによる個別英語学習。平成14年度から市立大の学生だけでなく、市民交流プラザで誰でも受講できるようになりました。週最低2日、1回90分以上の学習を6～7週間、指定された学習日の中で都合のよい日時を選べるうれしいカリキュラムです。内容は、ヒヤリング、リーディング、文法の問題を解き、TOEICの得点アップを目的としています。



シティカレッジ

平成14年度から、市民交流プラザと地元広島の高専教育機関が連携し、社会人向けの講座など、さまざまな試みを行っている中の一つ。大学等が持つ優れた教育・研究機能を一般の人にも公開し、生活に役立てていこうというもの。前期・後期講座に分かれ、各大学が特徴的なテーマを掲げた講座をプラザで開催します。



社会人のための大学活用フェア

今年7月2～4日に予定している、地元広島の大学講座の特徴や社会人学生のキャンパスライフが伝わってくる、市民交流プラザでのイベント。



その他の大学公開講座

各大学で行われる一般の方に開かれた講座。それぞれの大学の得意分野を生かした、専門の研究者による時流に則したテーマが盛りだくさんです。各キャンパスの雰囲気を味わえるチャンス！



エル・ネット「オープンカレッジ」ボランティアスタッフ講座がスタート！
エル・ネット「オープンカレッジ」の強みと課題は？
「そりゃ、やっぱり全国の大学が専門的な講座を出しとるんじゃけえ、レベル高いよ」「幅広いテーマから好きなものだけ選べる」「無料、試験なしで気楽」「録画の貸し出しもあるし」……。「じゃが、エル・ネットのこと知ってる人はそうおらん」「堅苦しい感じがするよね」「資格や評価につながるわけじゃない」「見た後で、ちよつと話がでけるとええんじゃが」……。「おすすすめ講座情報なんかあるといいね」「地域の学習会なんかに紹介して、講座ができたら面白いんじゃが」……。11人のボランティアスタッフは自分たちの学



新しいアイデアが飛び交うワークショップ

習経験を生かして、エル・ネットを多角的に分析。強みを生かし課題を解決しながら、どんな企画を提案するか真剣な議論が続きます。今、新しい生涯学習ボランティアグループが生まれようとしています。



プラザ1階の視聴コーナー

県立生涯学習センターとまちづくり市民交流プラザも協働
エル・ネット「オープンカレッジ」ボランティアスタッフ講座は、広島県立生涯学習センターが、エル・ネットの利用拡大や多様な活用方法の開発を学習者の立場から提案、企画・実施していくことを目的に開講したもの。まちづくり市民交流プラザはすでに常設の受信コーナーを持ち、番組のライブラリー化に取り組んでいます。今後県立生涯学習センターやボランティアスタッフと協働して、学習支援サービスの充実に貢献したいと考えています。